

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第22回 議事概要

日時	2026年1月13日(火) 13:30~14:50
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：吉田、木村隼、有賀、木村大 専門家：熊谷、榎本、長町 事務局：共創イノベーション課 田坂、平山、松永、村上

1. マスタープランの振り返り

市共創イノベーション課、デザイン会議熊谷委員よりマスタープランに基づく3年間の進捗状況について資料に基づき報告。

- **全体 KPI の達成状況**
 - 観光客数および宿泊者数は目標に対し、達成率 69%にとどまった。観光消費額は日帰りが 101% に対し宿泊が 85%と、滞在型の底上げが依然として課題である。
 - 一方で、宿泊客数の割合は目標 20%に対し実績 20%で、達成率 100%であった。
 - 市町村魅力度ランキングは令和 6 年度に 66 位となり、目標の 20 位以内には届いていない。
- **各ゾーンの主要実績**
 - **水産業レクリエーション**：唐戸朝市の定期開催化（毎月第 2・4 木曜）、カモンワークでのモバイルオーダー本導入。唐戸市場リニューアルに向けた基本構想に着手している。
 - **ゲートウェイハーバー**：海響館のライトアップ（R7.10 開始）や、サンセット・歴史・ナイト等の各種クルーズ実験が好評を博した。
 - **マリナーパーク**：リゾナーレ下関の開業によりエリアの核が誕生。モバイル有具やファニチャーの実験を通じ、滞留空間の創出を図った。
- **グリーンベルト計画**
 - 国道と湾岸部間の駐車場エリアを、単なる駐車スペースではなく、歩行者への日陰提供や風景を支える「グリーンベルト」として再定義した。
 - 民間の更新時期に合わせた緑化協力の依頼や、維持管理体制の構築が今後の継続課題となる。

2. 次年度以降の推進方針

市共創イノベーション課より、資料に基づき説明の上、議論。

- **デザイン会議の移行**
 - 次年度は庁内の関係課所が一堂に会するデザイン会議のやり方から個別事案に関して関係する実務担当者との協議や民間事業者を中心とした「みなと協議会（仮称）」へ引き継ぐ。
 - 大規模な会議では意見が出にくい面もあったため、今後は個別協議を数多く重ね、より具体的にマスタープランを実装していく方針。
- **カイキョーリボンプロジェクト**

- これまでの社会実験から、実装・民営化が可能なものを選択しブラッシュアップする。
- 具体的には、フライ&クルーズや浜焼き BBQ の実装に加え、市場で買った魚をその場で捌き、飲食店や家庭へ繋ぐサービスの検討などが挙げられた。
- **専門家からの主な意見**
 - **長町委員**：「大きすぎるマスタープランを、実現可能な 1.5 歩先の計画に落とし込む必要がある。全ての部局が思いを一つにできるスタイルが望ましい。」
 - **榎本委員**：「交通に関しては、1 年半という短期間で臨時駐車場の設置や料金改定を断行した推進力は素晴らしい。今後は関門連携も重要になる。」
 - **木村大委員**：「観光客目線だけでなく、市民がこの場所を使いこなし愛着を持つ『シビックプライド』の視点が抜けないようにすべき。」
 - **木村隼委員**：「できないで終わらせず、その具体的な理由やハードルを提示し、皆で議論して突破するプロセスにより予算化に繋げるべき。」

3. 専門家からの挨拶（3 年間の総括）

- **熊谷委員**：「他都市なら 10 年かかる進捗を 3 年でやり切った。知見が溜まった今、いよいよリアルな形が見えてくるのが楽しみだ。」
- **榎本委員**：「日本でも唯一無二の景観ポテンシャルがある。今後作られる財源を効果的に投資し、場所作りを続けてほしい。」
- **長島委員**：「専門家を信じて任せてほしい。この街を愛しているし、計画を確実に工事・実現へ繋げるために、今後も何らかの形で関わりを続けていきたい。」
- **木村隼委員**：「下関には自然・文化・制度の資本が揃っている。日本一のウォーターフロントシティを目指し、令和 14 年の目標に向けて、閉塞感を打破するチャレンジを続けてほしい。」

4. その他

共創イノベーション課より、次年度予算要求の状況について 2 月以降に改めて共有される予定である旨が伝えられ、閉会となった。